

授業の具体的展開例

（本時のめあてを確認）

T では、パネルディスカッションの進め方を確かめておきましょう。まず、はじめは、司会者による説明です。司会をする人はどのようなことを説明するのですか。

C はじめに、グループの名前を言って、討論の進め方を説明します。

T はい、そうですね。次は、代表による発表です。発表する人はどのようなことに気を付ければよいでしょう。

C 昨日、準備した原稿をもとに話します。

C 原稿だけを見ていないで、聞いている人の顔を見て話そうにします。

C ちゃんと聞こえているか、みんなの様子を見ながら話します。

T そうですね。伝えたいことが、はっきり分かるように間を取ったり、声の調子を変えたりすることも大切ですね。

では、聞いている人は、どのようなことに気を付けますか。

C 発表の内容をしっかり聞きます。

C 大事なことをメモしながら聞きます。

C 質問することを考えながら聞きます。

T なるほど、そういうことに気を付けて聞くことができれば、発表の後に質問しやすいですね。では、発表の後の討論では、司会の方は、どのような進め方をしますか。

（以下、進め方に即して留意点を確認。）

児童の発言を補うことでこの時間に指導したい「話す・聞く」の指導事項を盛り込むように留意する。

教師が進め方を一方的に説明するのではなく、児童に考えさせ、発言をつなぎながら進行について確かめていく。

板書例

自分たちの未来予測がしっかり伝わる
パネルディスカッションをしよう。

パネルディスカッションの進め方

- ① 司会による説明
- ② 代表による発表 伝えたいこと
- ③ 発表に対する質問と応答 メモ
- ④ 意見発表 簡潔に聞く・答える
- ⑤ 代表者によるまとめの発表 考えをはっきり
- ⑥ 司会によるまとめ その場で考える

ふりがな

＜発表者＞

- ・自信を持って発表できた。
- ・「伝わった」実感

聞き手

- ・質問への答え・・・おずかしい
- ・考えの違いがわかった。
- ・メモ・・・役だった。

考えを伝え合う→自分と比べる
→自分の意見を持つ→伝え合う

「活用」の力を育てるポイント

パネルディスカッションを始める前に、進め方や発言の仕方、聞き方を考えて、しっかり意識して活動に臨むことで、体験を通して、討論に関わる技能を身に付けられるようにする。